



やすらぎ工房スケッチ

## 発刊にあたって

## NPO法人そよかぜねっと

「NPO法人そよかぜねっと」の事業は、精神しょうがい者小規模作業所「やすらぎ工房」の運営が中心ですが、これまで同様地域の皆さんに支えられてこそ発展していきます。

それで市民の皆さんとの交流イベントを催すとともに、この通信によって少しでも精神科の病のハンディのある当事者を理解していただきハンディのある人とともに暮らし歩む社会へのほんの一步にでもなればと願い、微力ながら発行していきます。

(そよかぜねっと通信 編集委員)

- 平成10年8月 精神しょうがい者家族会「ほのぼの会」設立
- 平成12年3月 精神しょうがい者の社会復帰を目指す小規模作業所「やすらぎ工房」開設(ほのぼの会運営)～釜城館(三木図書館近く)で職員2名、通所者6名から出発～
- 平成14年3月 現住所に移転(三木市より水道ガス管理棟跡を無償貸与)～現在職員7名、通所者45名～
- 平成18年10月 障害者自立支援法の施行から、作業所運営主体の法人化への動きが強まる。
- 同年 6月 設立準備委員会発足、設立認証申請準備に着手
- 平成19年8月 設立総会開催
- 同年12月 兵庫県による認証、設立登記
- 平成20年1月 NPO法人そよかぜねっと 事業開始
- 2月9日 やすらぎ工房で”餅つき”を中心に「こころのバリアフリー教室」を開催、約150人参加、市民と交流した。

こうして、家族会設立から10年、作業所開設から8年、三木市内の精神科の病で悩む当事者とその家族の要望にこたえ、三木市をはじめ多くの地域の人々に支えられて、ようやく今日に至りました。

### チームワーク 今泉義之助 (理事)

このチームの構成員は？ 監督はどんな人？  
各構成員はどんな技を持っている？  
対戦相手はどこ？ 競技場はどこ？  
どんなリーグに入ってるわけ？  
練習はどこですか？ユニフォームのデザインは？  
このチーム結成の前はどんなチームだったの？  
という様々な問いかけに自分なりの答えを出して、全員と話し合いながら行動すれば、よいチームワークを作ることができ、チームの発展につながると思

## 当事者への理解の第一歩へ

**精神科の病** … 誰でも一生の間、何回も病気になります。なかには寝たきり、入院生活が人生という人もいます。ただ、発病の初期、働き盛りのときに社会での仕事を続けられずに信じられないくらい寝てばかりとか、夜昼逆転など、家族がハラハラさせられるのが精神科の病です。他の障害のように目に見えないためにどこが悪いのかわかりにくく、怠けて働かないなどと思いがちで当事者はつらい言葉に傷つけられます。

しかし、服薬治療を続けてようやく、やすらぎ工房のような「居場所」や軽作業を通じてきわめてゆっくり回復に向かいます。

**誤ったイメージ** … 病院から地域の中で当事者を支援するという先進国での流れに反して、日本では長期に精神科病院に隔離「収容」する政策が取られたために(最近ようやくその見直しへ向かっています)地域の人々が精神しょうがい者に接することが少なく、そのありのままの姿とは違うイメージで捉える偏見が生まれ、それがまた悩む当事者、家族が適正な治療を受けることを妨げます。

**いま必要なこと** … それは当事者が切望している社会復帰の道、福祉制度の発展を社会が用意することです。そして障害がある人がともに生きる地域社会の理解です。

この広報紙を市民の皆さんが当事者を理解する第一歩にできるならばと願います。 (そよかぜねっと 理事会)

### NPO法人そよかぜねっと設立披露会

●平成20年4月9日(水)

●青山公民館

10:00～

・アトラクション

青山篠笛サークルの楽器演奏

10:30～

・記念式典

11:00～11:55

・記念講演

演題:「NPO法人いねいぶるの取り組みと、私たちが考える精神しょうがいのある人の地域生活サポート」

講師: 宮崎 宏興氏

(NPO法人いねいぶる理事長)

# 当事者の声

## 私の辛かったこと

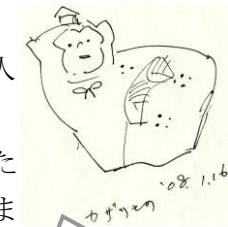
病気になって薬を飲むようになり、大学の勉強が思うように行かなくなった。

身体もだるく、朝目がさめても、しびれて身体が動かない。親に痺れている所をさすってもらって感覚が戻ってくるような感じだった。

それから5年かかって大学を卒業するまで、病気であるということをなかなか受け入れることが出来なくて苦しんだし、マイナス思考になって友達になる人がなかなか出来なかった。

入院していた  
時が辛かった

私のとても辛かった体験は、  
体重を落とすことです。  
体重が増えるのが怖い。



いつになったら  
社会からの偏見が

嬉しかったこと  
やすらぎ工房に来て良かった。

悲しみの海、怒りの炎 その真中の道を歩く  
喜びの波があり、そして歩く  
いつかふれて、いつか泣いて  
いつかゆれて、いつかよんで  
いつかはじまる愛 そして健やかに育てる愛

## やすらぎ工房に来てよかったこと

大学卒業後職に就いたが、なかなか続かなかった。その理由の1つは、やはり相談する相手がいなかったからだと思う。

やすらぎ工房に来て、良かったことは、健全な人間関係を提供してくれる職員さんの存在です。ここにくれば、同じ病気を抱えている人と出会えたり、友達として話し合いができると言う事で、今まで自分自身が感じる事が出来なかった喜びを日々感謝している。

## 設立おめでとう

NPO法人そよかぜねっと 設立おめでとうございます。

やすらぎ工房はいつもにぎやかであつたかいぬくもりが伝わる作業所で当事者にとっても大切な居場所です。

今後、NPO法人の設立により更なる発展をとげられることを祈っています。

また、餅つき大会を通して積極的に地域と交流される基盤作りを推進されますように願っています。

三木健康福祉事務所  
常峰 正美

やすらぎ工房へ  
来て良かったこと  
私は、病気になる前から無気力な日々がずっと続いていました。同級生たちが忙しく働いている中、私は、一人家に閉じこもり、何も考えずに日々を無為に過ごしていました。  
やすらぎ工房を見つけてくれたのは母親です。やすらぎ工房に来るようになってから、私の生活は一変しました。  
病気を持った同士、和気あいあいな様々な作業をこなすうちに、私は一日の大半をやすらぎ工房で過ごすようになりました。だんだんと明るくなり、メンバー同士で遊ぶようにもなりました。私には一つの目標が生まれました。  
“社会への復帰です”  
未だ主治医の先生には、アルバイト、パートの許可は出してももらっていません。経済的にも、いつの日にかきつと、

花の名を知らない、誰かおしえて...

## 編集後記

うり  
尽よ  
くし  
く通  
た信  
（伊  
東）  
い。な  
るの  
よし

て張もた。間積  
！環も。から駐  
、境も。青山輪  
、当境にすく！の丘の咲いた可憐な春ま  
すき事者にも、れた新緑も、ウグイスの美声  
見つけた、社会の命に作業を頑  
つて！、花を咲かせ



## お願い

### ～賛助会員になってください～

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域づくりを目指し、作業所「やすらぎ工房」の運営事業などの活動を行っています。

一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。

年会費：個人2千円・団体3千円  
(会費は、法人の運営費に充当されます。)

～ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください～  
払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。

嬉かのみ  
しら後で永  
いサはし年  
でボ。た。真  
す。！側。に  
頂かば苦  
けらし労  
れ後休さ  
ば方息

